メンバー経験者からの声

がんを経験し、「確かな情報を周囲に届けたい」と思っても、そのためには自らも常に学び続け、情報をアップデートしていく必要があります。年2回の検討会は、医療の現場が抱える課題を知り、多くの学びを得られる貴重な機会です。
患者・市民パネルで全国から集まる仲間と出会えたことは、「ひとりじゃない」と感じられる大きな支えとなり、たくさんの力をいただきました。一人では届かない声も、同じ想いを持つ仲間とつながることで、社会を動かす力になるのではないかと思います。何ができるかわからなくても、「何かできるかもしれない」と思える場所です。ぜひ一歩を踏み出して、どうぞお仲間に。（北海道）

家族をがんで亡くした後、地方で暮らす私は、同じがん種や似た境遇の方に出会う機会がなく、気持ちを話せずにいました。患者・市民パネルでは、似た経験を持つ方々と出会い、自分の思いを話すことができました。また、全国から集まった様々な立場の方々や、がんに関わる先生・職員の方々と意見を交わし、自分一人では思いつかなかった視点にも出会いました。
自分の参加が誰かの役に立つかは正直わかりません。それでも、何かの役に立てればという思いで参加しました。「自分なんかが参加していいのかな」と迷う方にも、ぜひ参加してほしいです。私自身、参加したからこそ得られた出会いや、語れた経験があり、そうした一つひとつがこれからの人生の糧になると感じています。
（青森県）

がん家系であることから、自身の罹患への不安もあり、正しい知識を身につけたいという思いと、医療従事者ではなくても何か役に立てることがあればという思いで、患者・市民パネルに応募しました。 全国の皆さんの経験を伺う機会に恵まれ、また、国のがん対策に微力ながら関わることができたことは、自分自身の学びにもつながる大変貴重な経験となりました。 がん治療の現状を知り、自分に合った治療を選択するためにも、「がん情報サービス」が誰もが知る身近な情報源になればと思います。ご応募を検討されている皆さまには、ぜひ参加していただければと思います。（東京都）

我が子を小児がんで亡くした経験から、がん教育や小児がんへの関心を持ち、参加しました。
「患者・市民パネル」では、これからのがん医療に対するアプローチについての討論や，様々ながん経験をもつ全国の方々と交流できました。私自身のがん領域の問題意識が大いに広がり，がんの正しい情報の大切さも痛感しました。とても学びのある機会を得ることができて感謝しています。
活動期間を終えるのは残念ですが、興味を持たれた方には必ずや刺激となると思います。ぜひ参加してみてください！（山梨県）

17年間の闘病で得た経験を何か社会に役立てられないだろうかと思い、患者・市民パネルに応募しました。
全国各地で活動している熱意あふれる仲間に刺激を受けるとともに、いかに信頼できる情報に行きつくことが大事か、そしてその情報を必要とする人々に確実に届けるために発信していくことの重要性を学びました。また、地元の患者会との橋渡し役にもなれます。がんの分野について広い視野での様々な学びもあります。本当に有意義な活動期間でした。（高知県）

患者・市民パネルに参加し、全国から集まった仲間とディスカッションを重ねる中で、自分の地域では知る機会のなかった情報に触れたり、同じ悩みを持つ方々と共感し合ったりすることができました。多くの学びを得ることができた、とても貴重な時間でした。地域を越えて生まれたこのつながりを、これからも大切にしていけたらいいなと思います。（徳島県）

がんサバイバーとして得た「気づき」を誰かの力になれたらと思い、参加しました。年2回の会議はリモート参加が可能で、治療中や遠方の方でも安心して関われます。活動では「がんになったら手にとるガイド」改訂版への体験談執筆や、「がんプログラム冊子」の査読に協力しました。全国の仲間と意見を交わす中で、多様な視点に触れ、ゆっくりと成長できたと感じています。あと一歩の勇気で、あなたもこの活動に参加しませんか。経験や立場に関係なく、誰かの支えになることができます。（熊本県）